

やまなしハイボール提案

学生と酒販店 連携プロジェクト

若者の「飲み会」増へ

新型コロナウイルス禍で減少した「飲み会」を増やそうと、県内の大学生が酒販店と連携し、飲食店の来客増を狙う「繁盛お手伝いプロジェクト」を立ち上げた。県産ウイスキーを使った「やまなしハイボール」を地元色のあるメニューとして飲食店に提案。ポスターなどを作り、飲食店にメニュー化を売り込んでいる。〈渡辺真紗美〉



メニュー化を決めた飲食店に、ポスターやコースターを紹介するプロジェクトのメンバー
＝甲府市丸の内2丁目

プロジェクトは県内の学生と企業、団体などが連携して目標達成を目指す事業「Miraiプロジェクト」の一環。山梨学院大3年の原拓海さんと石塚恒太さん、山梨県立大2年の相沢涼さんがマツムラ酒販（甲府市小瀬町、松村昌樹社長）の協力で企画した。3人は昨夏、甲府市内の居酒屋10軒以上に飛び込み訪問し、ヒアリング調査を実施。多くの店舗で若い世代の来店減少に悩んでいることが分かった。また学生側の声も調査。「友人2〜3人だと家飲みする」「コロナ禍の影響でゼミやサークルの飲み会がない」「幹事の経験がなく、誘うきっかけが分からない」などの意見が出た。

ポスターやコースターを作成して飲食店に提案し、9店舗の協力を取り付けた。甲府市丸の内2丁目の「寿司だるびしゅ」では、メニュー表の先頭への掲載が決まった。

「協力店舗を増やし、若い世代が居酒屋に足を運ぶきっかけづくりをしたい」と話している。

「原さんは「協力店舗を増やし、若い世代が居酒屋に足を運ぶきっかけづくりをしたい」と話している。」

そこでアルコールメニューを来店のきっかけにしてみよう、と、県産の「富士山ウイスキー」を使ったハイボールを「やまなしハイボール」と命名。「今日飲みに行かない？」をキャッチコピーにした